

財団法人日本エスペラント学会
2011年度事業報告 (2011-04-01～2012-03-31)

【はじめに】

本年度は、以下に具体的に示す諸事業と法人管理にあいまって、公益法人改革の指針に従い、新法人（一般財団法人日本エスペラント協会）への移行準備を行い、内閣総理大臣の認可を得て、2012年4月1日をもって新法人の登記を行うことができた。また、この機会に、団体会員制度を含む会員制度を改定し、2012年1月初頭より実施した。なお、2011年3月11日の東日本大震災にあたっては、エスペランティストの安否確認などを行った。

I 事業概要

【重点事業】

【1】第98回日本エスペラント大会（大会主催事業主体で、他の事業部門協力）

1. 本大会を第43回韓国エスペラント大会との共同で、「日韓共同開催エスペラント大会」（韓国・城南，10月7～9日）として執り行った。なお、本大会と、第30回日中韓青年エスペラントセミナーを同時開催した。大会参加者は、日本から342名、韓国から147名、他の国から11名であった。本大会は、従来の日本エスペラント大会の要素に加えて、エスペラントを実践する場の拡大、両国の友情の深化に多大な貢献があった。本大会は、本会と韓国エスペラント協会から選出された日韓共同大会合同組織委員会が担当した。
2. 国際交流事業として、下記を行った。
 - ・ 本大会に向けてグループ旅行団を組織し、3コースに96名が参加した。
 - ・ 韓国側と協働でAzia Agado（アジア活動）、Delegita Reto de UEA（UEA代議員）、Pasporta Servo（国際民宿網）の分科会を実施した。
3. 普及事業として、韓国側と共同でEsperanto-rondoj japanaj kaj koreaj（日韓のエスペラント会）の分科会を実施した。また、本会会員総会を行った。
4. 図書出版事業として、記念出版品、『Trilingva Interparolado 3言語の会話集』（CD,テキスト）を発行し、日本語・韓国語・エスペラントでの会話の手引きとした。
ISBN978-4-88887-069-6C0887Y800E 定価（本体価格800円+税）、600部発行。
5. 雑誌刊行事業として、12月号の会誌La Revuo Orientaを大会特集号とした。
6. 研究教育事業として、文芸コンクールを行い、日韓双方から3名の入賞者を選出した。1位、2位入賞作品を会誌の大会特集号に掲載した。

【2】ハヶ岳エスペラント館の保全（研究教育事業関連）

研修施設であるハヶ岳エスペラント館（1994年開館）を今後20年にわたって利用可能にし、そして、利用者の利便を図るために、次のような保全や改善を行った。

- ・ 外壁塗装，鳥害防止ネット取り付け，床下消毒，屋根の清掃と天窓掃除。
- ・ 上水道直結，シャワー改造，手すり付け替え，ウォッシュレット増設，電気容量変更。
- ・ ごみ置き場設置，ごみの分別と処理方法の改善。
- ・ テレビ受像機購入，宿泊室の照明の改善。

【3】東日本大震災対応（普及事業，国際交流事業，法人管理関連）

東日本大震災に対しては、直後から組織部を中心にした安否確認チームが本会会員、エスペランティストの安否を確認し、また、国際部が海外からの見舞いを取りついだ。会員、エスペラント会、海外からの東日本大震災支援金が883,803円集り、被災者へのお見舞金および被災地区のエスペラント会への支援金としてお渡しした。また、7名の会員の会費を一年免除した。

【一般事項】

【1】 エスペラントを用いた国際交流事業

【1. 1】 概要

日本と外国のエスペランチストが国内外で交流する機会を提供した。

【1. 2】 事業（国際部が担当）

1. 国際的なエスペラント交流に参加し、またその機会を提供した。
 - ・ 第96回世界エスペラント大会（7月23日～30日、デンマーク・コペンハーゲン）への参加を呼びかけた。日本から107人が参加。Universala Esperanto-Asocio (=UEA, 世界エスペラント協会) 委員2名を派遣し、UEAの事業に協力した。プログラム "Movada Foiro" で本会や Japana Esperanto-Junularoの紹介をした。
 - ・ 上記大会へ参加旅行団を組織し、2コースに22人が参加がした。
 - ・ 第67回国際青年エスペラント大会（7月14日～21日、ウクライナ・キエフ）への参加を呼びかけた。日本から4人が参加。
 - ・ Komisiono de Azia Esperanto-Movado (=KAEM, アジアエスペラント運動委員会) の機関誌 "Esperanto en Azio" 71号～74号編集・発行に協力した。
 - ・ UEAに協力してFondajo Azio de UEA（アジアのエスペランチストをUEA会員に）へ237,500円を日本で集めた。同Fondajoはベトナム、ネパール、モンゴル、パキスタン、中国、インドネシア、スリランカのエスペランチスト124人をUEA会員にした。
 - ・ 第98回日本エスペラント大会関連：重点事業【1】の2項参照。
2. 国際文通サービスを継続した。
3. 国際行事に参加する青年エスペランチストに対し、1人に「青年エスペランチスト国際行動基金」を、他の1人に「エスペラント国際会議招へい基金」を供与。

【2】 エスペラント普及事業

【2. 1】 概要

エスペラントを国内に普及する事業を諸団体と連携して行った。また、エスペラントを広報する事業を行った。

【2. 2】 エスペラント活動推進事業（組織部が担当）

1. 国内エスペラント諸団体の活動をアンケートで収集し、これをまとめて会誌 La Revuo Orienta 8/9月号に「エスペラント運動年鑑」を掲載した。また、講習会情報を収集し、次項の広報活動に活用した。
2. 第98回日本エスペラント大会関連：重点事業【1】の3項参照。
3. エスペラントの活動に対して後援を与えた。【別表2】参照。
4. 2011年小坂賞を山田義氏に授与した。

【2. 3】 エスペラント広報事業（広報部が担当）

1. 広報誌『エスペラント通信』を4月、6月、9月、12月に発行し、マスコミ約140社に送付した。
2. ウェブサイトによる情報提供を行った。
3. 第4回「エスペラントの日」公開講演会（6月11日、東京）にて2講演をおこない、74人が参加した。演題は以下の通り。
 - ・ 野間秀樹氏（前東京外国語大学大学院教授）「ハングル：〈文字〉という奇跡」
 - ・ 後藤斉氏（東北大学大学院文学研究科教授）「エスペラント言語文化史の試み」
4. グローバルフェスタ(10月1～2日、東京)に参加した。ブースを出してエスペラントの広報を行い、この中での5分間エスペラント講座の受講は約100人であった。また福田俊弘氏（マジ

シャン) による「エスペラントで深める世界との絆」という題のワークショップを行い、約30人が参加した。

5. 「ザ・ギース尾関のいろいろ教えてもらえませんか」というトークライブ(東京)に2012年3月31日に中村大真理事が出演し、エスペラントについて語った。約50人参加。

【3】エスペラント雑誌の刊行事業

【3. 1】概要

会誌 La Revuo Orienta を発行した。

【3. 2】事業(編集部が担当)

1. 会誌「La Revuo Orienta/エスペラント」(ISSN 0035-4406)を刊行した。毎月A5判40ページを基本として11回(8/9月は合併号)。会誌の音声版を視覚障害のある会員や高齢で本が読みにくい会員に発送した。本会会員限定でインターネット上で同誌のPDF版を公開した。

【4】エスペラント図書の出版・頒布事業

【4. 1】概要

エスペラントに関する図書の出版および頒布事業を行った。

【4. 2】エスペラント図書出版事業(出版部が担当)

1. 第98回日本エスペラント大会記念出版：重点事業【1】の4項参照。
2. 辞書関連については具体的検討に入らなかった。

【4. 3】エスペラント図書頒布事業(総務部・事務局が担当)

1. エスペラント図書の販売、取次を行った。

【5】エスペラント研究教育事業

【5. 1】概要

エスペラント学習者の語学力向上に資する事業およびエスペラント語学の振興を図る事業を行った。北杜市内の八ヶ岳エスペラント館は研修施設として活用した。

【5. 2】研究教育本部事業(研究教育部が担当)

1. エスペラント学習者の語学力向上を支援し、セミナーや試験などを実施した。
 - ・第44回エスペラントセミナー(5月3日～5日、札幌市)を30名の参加で実施した。
 - ・中級セミナー(11月5日～6日、東京)を9名の参加で実施した。
 - ・エスペラント学力検定試験と新学力テストを実施した。受験者は、検定試験が4名(札幌3名、枚方1名)、新テストが4名(札幌)であった。
2. 学校でのエスペラント関連授業の支援を行った。
 - ・「学校へ緑の風を」基金から、「国際語エスペラントへの招待」11冊を高校1校へ贈呈、パンフ「ホントの国際語って?」30枚を高校1校へ贈呈した。
 - ・学校でのエスペラント授業について、組織部と協力して現状調査を行った。
3. 「新教材委員会」で前半部分(43課)を完成させ、2012年4月からのネット公開のための体制を整えた。
4. 図書館の整備をボランティアを中心に行った。
5. 文芸コンクール：重点事業【1】の6項参照。

【5. 3】八ヶ岳エスペラント館事業(研究教育部内の八ヶ岳エスペラント館運営委員会が担当)

1. 利用状況と運営体制。
 - ・利用期間は計画通りで実施。利用者は179人とどまった。本年度は、東日本大震災のため交通機関への支障、旅行の自粛などがあり、低迷した。広報宣伝では会誌 La Revuo Orienta で「八ヶ岳だより」の連載などを行ったが、各エスペラント会やエスペランティスト個人への働きかけが不十分でもあった。

- ・運営委員は現状のまま。ライセンス新規取得者1人，再取得者1人であった。
- ・館の保全については，重点事業【2】参照。

2. 研修行事など

- ・6月に「八ヶ岳エスペラント館講演会」を開いた。栗田公明講師が講演し，11人が参加した。
- ・8月に第13回Nur-Esperanta Kunvivadoを開催し，17人が参加し，成功裏に終わった。
- ・館内の展示を，「世界大会開催国デンマーク」と「南アジアセミナーが開かれるネパール」をテーマに行った。
- ・共催行事として，関東エスペラント連盟の合宿（8月）を開催した。14人参加。
- ・その他，館独自行事として「本の日」を開催，版下の作り方，製本の技術などを12人が学んだ。

【6】エスペラント大会主催事業

【6. 1】概要

1. 日本エスペラント大会を毎年継続開催する。

【6. 2】事業（組織部が担当）

1. 第98回日本エスペラント大会（2011年）を実施した，詳細は重点項目【1】参照。
2. 第99回日本エスペラント大会（2012年）を北海道エスペラント連盟との共催で準備した。
3. 第100回日本エスペラント大会（2013年）について，2012年2月に準備会を発足させた。

【7】その他前条の目的を達成するために必要な事業

【7. 1】エスペラント会館活用事業（総務部が担当）

1. 東京都早稲田にあるエスペラント会館の1，2階をテナントに貸与し，3階会議室，4階教室を時間制で貸与した。

【法人管理】（会計上の法人会計に相当する）

【概要】

本法人を管理し，本会の会員支援および各事業部門の事業の支援を行った。

【業務の実施】（担当部ごとに記す）

1. 総務部

- (1) 総務部の職務（庶務，会員管理，役員支援，施設管理など）を，事務局および関連委員会（選挙管理委員会，小坂賞委員会ほか）を通して実行した。
- (2) 財団移行検討委員会に協力し一般財団法人移行申請手続きを行った。移行のために必要な規程類改訂を行い，新財団における最初の評議員を文部科学省の了解を得た方式で選定した。

2. 財務部

- (1) 堅実な財務運営を図り，本会事業の執行を財務面から支えた。
- (2) 一般財団法人移行に伴う公益目的支出計画および中長期的な財務計画を策定した。
- (3) 新財団移行に伴い，一部の特定資産，基金の一般資産化を決定した。

3. 組織部

- (1) 会員の拡大・定着への働き掛けを行い，また会員状況を活動基礎資料として関係者に提示した。しかし，残念ながら2011年末の会員数は1200名を下回った。
- (2) 新財団移行を契機として，2012年1月より団体会員制度を発足させ，年度末までに40団体が加盟した。また会員種別を一部改定した。また，「維持員会支部」の制度を廃止した。

4. 広報部

- (1) ウェブサイト（<http://www.jei.or.jp/>）や会員向けメーリングリストを管理し，諸事業を実施する際の基盤とした。
- (2) 特にウェブサイト内に「インターネット短信」のページを8月に創設し，インターネット内に現われたエスペラント関係の記事，サイトについて案内を始めた。

II 処務事項

1. 会議の開催（場所は記載のないものは東京都新宿区の本会会館にて）

(1) 理事会

- ・ 5月22日（事業報告、決算を承認、他）、
- ・ 7月10日（評議員選定委員を決定、他）、
- ・ 8月21日（新財団の定款を承認、現財団の廃止を予定、他）、
- ・ 9月11日（特定資産を見直し、他）、
- ・ 2012年1月15日（基金の見直し、他）、
- ・ 2012年3月18日（新財団の事業計画、予算を承認、他）。

(2) 評議員会

- ・ 5月22日（事業報告、決算を承認）、
- ・ 8月21日（新財団の定款を承認、現財団の廃止を予定、他）、
- ・ 2012年3月18日（新財団の事業計画、予算を承認、他）。

(3) 常務理事会

- ・ 4月24日、11月13日、2012年2月19日。

(4) 維持員会総会

- ・ 10月9日（韓国ソナム市、第98回日本エスぺラント大会内）。

(5) 維持員会支部代表者会

- ・ 11月27日（支部制度廃止、団体会員制度説明）

(6) (新財団) 評議員選定委員会

- ・ 8月20日（最初の評議員と、評議員補欠を選定）

2. 会員（財団法人の維持員）：2011年期末で1196人。

3. 寄付金の受入れ 合計 1,781,814円

(1) 指定寄付

- ・ 八ヶ岳エスぺラント会館運営資産：個人193人、577,320円
- ・ 日本大会基金：個人122人、447,700円
- ・ 日韓大会記念図書出版：個人1人、50,000円
- ・ 終身会員：2人、500,000円

(2) 一般寄付

- ・ 団体：1件、47,000円、
- ・ 個人：34人、159,794円

4. 理事、評議員改選

財団移行準備のため、年度当初の理事、評議員が引き続き年度末まで務め、改選は行わなかった。